

## 都留市 CCRC 構想研究会第 1 回分科会 議事録（公開用）

平成 30 年 1 月 23 日に開催しました「都留市 CCRC 構想研究会第 1 回分科会」の議事録を抜粋・編集したものを公開します。なお個人情報保護の為、参加者・発言者の氏名や、事業者が特定されるような発言等については削除しております。また、本議事録を無断で転用することは固く禁じます。

### ● 本研究会の参加目的・都留市（田原地区等）で取り組みたいこと

#### 【学生との協働、交流】

- ・当社は学生との接点が多いため、都留市の大学連携型 C C R C においても手伝えることがあるのではないかと考えている。
- ・地域にとって大学は「宝」であり、大学をどう生かすか（引っ張り出すか）が市としての再活性化の課題であると考えている。自治会では、地域のイベント等を開催する際には、大学や学生へ参加や連携の打診を頻繁に行うようにしている。
- ・都留の強みは大学があること。高齢者は生涯学びを求めている。
- ・県内他地域でも地域で高齢化が進む現状を見るなか「安心のあり方」を考えるべく参加した。都留の強みは大学で若者が集まっていることにあると思う。
- ・住宅関連の建設のほか、分譲地も取り扱っているので、土地の面でもまちづくりに協力できるかもしれない。都留市は学生が多いという印象である。学生との連携により、例えば緑のある街並みなど、全体的なまちづくりを考えて魅力を高めていく必要がある。
- ・地元の高齢者と移住者を巻き込み、余生に向けたサービスを何か提供できればと考えている。都留市の印象は、「学生のまち」。
- ・都留市のまちづくりに参加したいという思いから研究会等に出席している。一般的な意見として、C C R C で高齢者ばかりを集めてどうするのかという声が多いが、本日プレゼンがあった大学生の意見を取り入れ、健康に暮らせるまちづくりを行ってきたい。

#### 【健康増進・健康管理】

- ・スポーツトレーナーや介護事業の経験を有しており、子どもの運動や、高齢者が元気に暮らせる事業が生まれると良いと考えている。
- ・健康第一ということは頭では理解されていても、実際スポーツジムに行く人は全人口の 3 % であり、行動につなげていない。運動を始めるきっかけとしてコミュニティの役割は大きい。
- ・警備、防犯、セキュリティー等に強みを持っているが、高齢者の健康管理や見守り等にも事業を展開している。入居者の安心・安全に関わる場所で協力できないか、と考えている。
- ・海外では電子機器を応用する形で高齢者の健康把握や周辺生活の楽しみ方を提供していたりしている。電子端末で健康を把握する仕組みや電子マネー等の決済システムを活用する形で各種サービスが提供できないかと

考えている

### **【しごと（就労や雇用の創出）】**

- ・学生や若い世代が就職できるよう、仕事が必要である。
- ・高齢者雇用するには、仕事の内容などが覚えられなかったり、事故が起こるのを避けたりする必要がある。このようなことに IoT、AI、ロボティクスなどをうまく使えないかと考えている。

### **【観光や地域の魅力づくりなど都留の楽しみ方】**

- ・都留市に何度も訪れているが、新鮮な魅力がたくさんある。それらをクローズアップして都留市を知らない人に発信していければよい。
- ・自分は都留市の出身であるが、地元からの目線かというと、都留市にずっと居続けられる「何か」が必要と感じている。

### **【その他】**

- ・高齢者の「見守り安心サービス」を行っており、商品の配送に合わせた見守りサービスを実施している。
- ・都留市と他の地域との違いは「田舎だけど閉鎖感がない」ことである。このような風土は移住者の受入において強みとなる。
- ・直接、住民や地域の方と話し、どうやってつって行くのか考えたい。
- ・日本にアメリカ型のディベロッパーが作る C C R C を導入することは難しい。地域の事業者と連携して事業化できるとよい。
- ・都留はサ高住と企業のある地域が離れているため、交通に関する施策も必要だと思う。働き方改革にもつながるのではないかと。
- ・プレゼンの感想としては、「都留には温かい人が多い」と言っていたが、私も今朝雪道を歩いていたら地元の人に多く声をかけてもらったので、その通りだと思った。自分は全国各地へ行ったことがあるが、そのような地域は少なかった。
- ・地元でも地域の活性化をやるようとしているが、ビジネスとしたいことが繋がらないジレンマというものを感じている。
- ・ただ建物を建てるだけでは CCRC は成り立たない。そこに住まう住人のための中身が重要
- ・下谷地区開発の際に、地元企業との連携等できないか考えたが、実現しなかった。田原地区のプロジェクトに関して携わる事業者やサービスを行う事業者等地元企業との連携ができればよい

### **● 今後の分科会で議論したいこと・地元の状況について知りたいこと**

#### **【第1グループ】**

- ・都留文科大学の学生と企業が意見交換できる機会があると良い。当社は介護システムやシステムソリューションという「器」は用意できるので、実際に使用されるユーザーとしての意見収集や、システムの周知や浸透を図るための

参考として、学生から意見を聞く機会があるとありがたい。

- ・学生とコラボによる新しいビジネスの検討や、高齢者向けシステムの登録方法や使い方を学生が高齢者に教えるなどの世代間交流の創出など、企業と学生が連携することで創出できると良い。
- ・「子育て」や「高齢者の看取り」についてのテーマがあると良い。
- ・子育てについて、私は県外から移住してきた子育て世代であるが、他県から移住してくる場合、親にとって「周りに知り合いがないこと」と「子どもが地域になじめるか」が不安である。また、外部から子育てに関するサービスや「地域でこういう交流が行われています」という情報を調べる手段がない。そのため、移住してきた子どもが地域になじめる仕組みや、都留市ではどう子育てができるといったビジョンが発信されていると良いのではないかと。
- ・高齢者の看取りについて、安心して亡くなれる場所（地域）であるべきである。ショートステイなどの介護事業者で高齢者をお預かりすることがあるが、看取りの段階では受入を続けることができない。しかし、自宅に戻すことを家族が拒否されることや、病院も病床数が減少してくるなかで、在宅での看取りができる環境があること（定期巡回など）、また、それを発信することが、移住してくる高齢者にとっての安心につながるのではないかと。例えば、パルシステムの「見守り安心サービス」と地域の介護事業者が連携して地域の高齢者を見守るなど、企業間の連携が実現すると良い。
- ・都留市及び首長の施策が重要であり、また、そこに住民がいかに賛同するかが重要である。全国と一律の動きをしているようでは移住者は来ない。また、国の施策も変わることが多いので、国の施策もあてにならない。都留市がきちんとビジョンを示し、そこに住民が関わられるような仕組みを作るべきである。
- ・学生が都留 C C R C のプロジェクトにどのように関わるのか、都留市がビジョンを示すべきである。都留市は「大学連携型の C C R C」と言っているが、学生がどのように関わるのか見えてこない。
- ・大学生だけでなく、地域の小中高生の「キャリア教育」にも力を入れるべきである。地元の児童や学生は、ほとんど地域の企業を知らないのではないかと。地域の企業を知ってもらうために、インターンシップや社会科見学を早いうちからもっと行うべきである。また、学生と地域の企業がディスカッションできる機会を設けるべきである（「総合の授業」で地域の企業が学校に行くなど）
- ・都留市にとって移住促進も大切ではあるが、県内外から来る都留文科大学の学生を市内の企業に定着させる取組みも必要ではないかと。都留文科大学の学生が都留市の企業に就職することは少ないと思われる。もっと地域の企業と学生が接点を持てるようにするべきである。また、学生が地域（都留市）で働くことをもっとイメージできるように企業側が情報発信をしていくべきである。
- ・最近働き方が多様化しており、都市部から近いことを生かしたサテライトオフィスの設置や、シリコンバレーのような産業の集積を目指してはどうか。
- ・弊社では、地域の方が地域の方に配送する取組みを行っている。このような取組みにより、地域のつながりの創出や雇用の創出をしている。C C R Cにもこのような取組みができると良いのではないかと。また、最近県外から来る学生の親が、子どもの食生活を心配して遠方から注文してくるが増えている。このような支援を地域内でできると良い。
- ・都留市で抱えている課題（人口減少など）は、大月市や上野原市などの近隣自治体にとっても深刻な課題と

なっている。近隣自治体とは郡内地域として運命共同体であるため、都留市 C C R C の取組みが近隣自治体のモデルになれると良い。

- ・高齢者福祉では、「健康寿命を延ばすこと」がテーマとなっている。健康づくりとともに、地域との関わりやつながりも重要となってくる。地域内のサポート体制を整えるとともに、住民の知恵を活用すべきである。
- ・都留市には地域のキーマンとなる方がもっと沢山いるので、その方々を活用できると良いのではないかと。都留市は地域ごとに「まちづくり委員会」を設置しており、地域住民が当事者意識を持って、地域の課題を発見し、自分たちで解決する取り組みを行っている。
- ・都留市出身者の女性で地元就職する人は少ない。特に都留市は工業系の企業が多いため、女性が就職できる企業が少なく。ただし、県外に就職した女性でも「いずれは都留市に戻りたい」と考えている人も多い。
- ・田原のプロジェクトについては、すべてを 1 社がおこなうのではなく、様々な企業がチームとして関わっていくことが現実的であるとする。本日のディスカッションの中で、自社の強みを生かして他社と組んだら事業ができるかなどを模索していただきたい。

## 【第 2 グループ】

- ・学生と企業のコラボレーションをインターンシップのような形でできないか。企業とまちづくりに取り組む。ハウスメーカーと家づくりや自動車会社と高齢者の移動についてカーシェアをする環境づくりができないか。自動車は販売店がある企業が考えられないか。地域と学生、企業の 3 者を繋ぐ。
- ・取材目的で参加したので、移住者、事業者は何を売り出せばいいか知りたい。これまで大学生や高齢者の方々、農業、水がおいしいといった点が印象に残っている。
- ・県内の大学に勤務している。学生は 8 割が地元だが、地元の課題を知らない。例えば、富士山のごみ、家族の老老介護など、こちらから課題を提示している。学生が地元の課題を自分で発見できるようにするため、大学として地元とどう繋げるか考えたい。
- ・少子高齢化の中で、健康ボウリングを掲げており、92 歳の男性が週 3 回 2 ゲームしている。人と人とのつながりができる。
- ・インバウンド客が来ており、呼び込む策が必要。
- ・学生、社会人、こどものマッチング。共に遊べるレジャー施設はどうか。
- ・自分たちはハードは作れるが、運営、集客はできない。前橋の CCRC の推進法人となったが、関係者の思惑の違いから脱落する企業が出てしまい、代替テナントが見つからない状況に陥っている。まちとして何をするのか決め、プレイヤーがいないといけない。
- ・農業でなにか役に立ちたい。テレビ番組の「人生の楽園」でも大多数が土いじりや農業をおこなっている。
- ・都留市の農業者は跡継ぎおらず、農地の貸し出しは比較的協力的。道の駅ともリンクできればよい。「不良老人の会」と称して友人たちと地域での農業の取組を手伝おうとしている。
- ・人を呼び込むことを考えたい。「週末は山梨にいます」というような TVCM のようなキーワードを打ち出してはどうか。
- ・介護保険の転換期にある。デイサービス、ヘルパーが地域支援となるが、予算上限がある。

- ・介護予防にまわすお金がなくなり、居場所づくりが重要になる。また、ヘルパーのやっていたサービスの助け合い体制が必要。介護ボランティアなど生きがい、やりがいを感じて元気になってもらうのが大事。
- ・その担い手、ボランティアを見つけ出したい。今回の雪でも、30分300円の雪かき希望の電話が殺到したが、担い手が足りない。
- ・まず、魅力の発信が挙げられた。地域の魅力はなにか。農業、アミューズメント。高齢者の仕事が求められている。有償ボランティアなど、年金以外の収入になるもの。
- ・次に、まちづくりの学生との連携。文大COC交流センターではパンフレットを出している。
- ・藤野町のように、町全体のテーマをもつのはどうか。小中高一貫で教育する。健康は世代を通じたもの。
- ・学生系、アクティブシニア系の取組がある。ビジネスの話が重要。
- ・学園のまち—教育をテーマにしてはどうか。旧勝山村は中学校教育が特長的でFANACの子弟が多く通った。
- ・学生、アクティブシニア、教育、健康をタイアップ、掛け合わせる。体験的な教育。
- ・農業は加工も含めて、オープンに連携していきたい。
- ・自分たちがやりたいことがあっても、どこに話をしていったらよいのか分からない状況。このように話をする場がなかった。
- ・農業もボウリングも男性高齢者の居場所になっているのが興味深い。

### 【第3グループ】

- ・当社の市宛ての事業提案の中でうたったのは「高齢者＋子育て世代」というコンセプトである。介護で人が足りない中子育て世代の細切れ時間を使って労働力を確保する。高齢者にも子育て世代にも大学が提供する学びのコンテンツが活用できる。その他の働き口として植物工場等の先進技術を使った農業をあわせることも可能ではないか。また、どうやって人を集めるかということで、例えばe-sportsの世界レベルの選手を都留で育てるというのも面白いのではないか。
- ・東部広域での魅力発信が大事。北麓や忠霊塔に来るインバウンドを文大前で降りてもらうにはどうするか、という視点。
- ・現状の市の方向性はすべての移住ニーズにこたえようとしているように写る。市にあるものは限られているので、取組むものをしぼり、ブラッシュアップすべきだ。どんな要素がニーズに即しているのかというのはその人の置かれた様子によるものであり、人はニーズに応じてくれるものを選ぶ。自分の例だが、子育てをしていたときには吉田の公園によく行っていたが、都留にはうまく応えられる施設がなかった。また子どものころは文大にこども祭りなどでよく行ったが、いつの間にか足が遠のき、今では関係がない。
- ・感覚として農業へのニーズは高いと思う。
- ・学生と一緒に多世代交流の場を作ることが必要だ。
- ・社内でサ高住と学生シェアハウスとの合体版を作ろうとしたことがある。入居学生が介護のバイトをする代わりに家賃半額という事例もある。認知症カフェとのコラボなど、学生と組んで何かするという現実味が増した気がする。

- ・収入の安定性をどう作るかと、地縁の濃い山梨の事情を踏まえうえで、新旧住民のつながりをどうつくるかが課題だと思う。

#### 【第4グループ】

##### ● 「学生」について

- ・例えば、庭先で家庭菜園を考えている人達に対して、大学生が基礎的なことを教えてあげるなど、学生との連携を強化すべき。また、コミュニティの形成も重要。ボランティアサークルのような、継続的な取り組みを目指すべき。鎌倉市にあるスターバックスでは、店内のテーブルごとにテーマが用意され、若者からお年寄りまで色々な世代の人達がテーマに沿って交流していた。
- ・学生という「学生街」をイメージする。学生が「たむろせる」場を作るのはどうか。例えば、安くおいしい食堂や夜の11～12時ごろまで長時間勉強できるカフェなど。また、学生が便利になる代わりに、その運営について学生にも協力してもらうなどの仕組みづくりも必要。
- ・地域活性を促すためには、学生が都留市に残ってもらえるように、例えばスポーツジムなど働き口を作っていく必要がある。
- ・都留市にはアルバイト先があまりなく、学生は八王子などでアルバイトをしているようだ。せめて地元でアルバイトができるような環境を整備できないか。
- ・都留文科大学周辺に人を集約させるべきだ。文大生には卒業後も残ってもらうようにするほか、地元の市民を巻き込み、さらに文大生以外の学生も呼び込み、互いに連携させることが必要だ。
- ・大学間連携としては現状でも様々な取り組みを行っている。また、地域の小学校で当校の教授が出張授業を行っている。ただ、広く市民の方向けとしての取り組みはまだまだである。

##### ● 「就労」について

- ・都留市には小規模零細の製造業が多い。一方で都留文科大学には理系が無く、地元への就職という点ではあまり馴染まない。
- ・高齢者は、雪かきや買い物、電球の取り換えなど、自分だけでは対応できないことがたくさんある。時給は安いかもしれないが、学生に有償ボランティアとして高齢者を支援してもらうのはどうか。ただ、誰がそのマッチングをするのが問題である。
- ・学生として市内にいる間だけでもアルバイトをしてもらいたい。若さで輝くミニシティというのがまちづくりの理想。また、子育て中の母親からの意見として、公園のような施設もほしい。緑が豊かで、人と出会え、皆で楽しめる空間があるとよい。

##### ● 「観光」について

- ・「観光」をC C R Cのまちづくりに絡ませることはできないか。市内で県外ナンバーをよく見かけるが、大抵は素通りしてしまう。立ち寄りたくなるような「見るもの」「食べるもの」などのワンクションがあればよいのだが。
- ・例えば富士急行線で都留市駅に近づいたとき、「買っていかなきゃ」という何かがあれば、駅で降りてくれるだろう。

そういったコンシューマー向けの商品を起爆剤にするのはどうか。文大生に予算を与えて実験・開発をしてもらい、学生ショップを開いて売ってもらってもよい。

- ・都留市の魅力は「自然」。観光を絡ませるのであれば、農業やムササビ観察など、体験型のツアーを組んではどうか。山が無い地域の人達にとっては、都留市での体験は売りになる。

## 【第5グループ】

- ・田原地区に住んでいる方たちの CCRC の印象はどのようなものか。
- ・高齢者のための移住施策と思っている人が多い。もっと広い意味での CCRC を知ってもらう必要がある。
- ・元気な状態から介護の状態に移っていく間の、雇用面・生活面の変化の仕方が見えない。本当に田原だけで元気な時から最期まで生活できるのだろうか。介護の前段階の状態、行政は周りの人たちは何ができるのだろうか。
- ・私は藤沢に住んでいるが、母が一人で相模原に暮らしている。呼び寄せようとしても、便利でないところは嫌だと言われる。逆に介護サービスについてはそこまで気にしていないようだ。
- ・街の中と外両方に、CCRC の取組みについてきちんと認識もらうことがすごく重要だと思う。田原地区の人は、街ぐるみで CCRC に取組み、街全体がいい方向になるんだということを認識してもらう必要がある。事業者のマッチングはその後うまくいくという。
- ・プロモーションと、ニーズに応じた施設の作り方に興味がある。
- ・仕事を作る若い人たちが必要だ。
- ・シニアにはやりがいや役割が重要だ。
- ・最新の健康管理方法を知りたい。
- ・1つの大学の学生が人口の1割を占める街はなかなか無い。学生向けに4年間都留に住んだ感想を聞くアンケートを行うと良いのではないだろうか。
- ・次回はマッチングを期待している。
- ・自分にできることは健康づくり。ニーズが出てくる中で提案したい。
- ・子ども関連の事業も提案したい。
- ・みんなが使えるような田原地区になれと良いと思う。

## 【第6グループ】

- ・CCRC に興味がある層に対して福祉のイメージだけでは弱い。富士山や河口湖との地理的関係をアピールすることも大事と考える
- ・先ほど中身作りが重要と申しあげたが、特に仕事が重要。サ高住は介護されるというイメージであるが、実際に呼び込む人は元気な人であり、仕事があれば移住したいという方もいる。
- ・先ほどプレゼンテーションで紹介された実際の移住者10名の方は大きなヒントとなるはず
- ・若い人が移住するための魅力としては、その地域で外部の方を受け入れる土壌、ホスピタリティが重要と考える。

- ・市内の交通の便も重要だと思う。車を持たない学生や高齢者の車による事故も多発している。都留市自体が車ありきの生活だと思うが、移動手段として公共交通のあり方も重要ではないかと思う
- ・高齢者の健康増進について、公共交通との関係もあるが、歩くか自転車に乗って移動するかだと思う。実際 1 時間のサイクリングは高負荷とのデータもある。
- ・例えばシェアサイクリング等で自転車を乗り捨てできるようなステーションを作る手もある。自転車があればもっと外に出かける動機になり、広範囲で移動可能になる
- ・高齢者世帯の健康・見守りについても考える必要がある。
- ・ハード整備のみでは難しい。例えば学生との交流をメインする策もあるのではないか
- ・移住者は「終の棲家」としていわば退路を断って移住することになる。年齢を重ねていけばいずれ医療や介護が必要になり、そのような施設・サービスの充実は一つの判断材料になるはず
- ・お墓の問題は気になるところ。先ほど紹介のあった事例 2 の方は参考になるかもしれない
- ・移住者にとって「終の棲家」になることをよく念頭に置いたほうがよい
- ・都留市自体、リニア新幹線や道の駅等で盛り上がっているが、もう一步認知を上げたいところ。市内を動く交通手段も課題
- ・移動手段としては特区としての白タク導入は考えられないか
- ・高齢者の免許証自主返納の問題もある。例えばスマートフォンを活用できないか。コミュニティーバスはなかなか成立しづらい。
- ・高齢者が安心安全に暮らす仕組みづくりが重要。都留文科大学との連携もあるのではないか
- ・大学生が多いということだが、出て行かない定住させるような工夫も必要ではないかと思う。また市内移住も考えるべき